

「新型コロナウイルスのワクチン接種状況に関するアンケート調査」結果の概要と総括

令和3年10月31日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

新型コロナウイルス感染症拡大による介護現場への影響と課題を検討するため、運営サポーター及び代議員 221 名（令和3年9月28日時点登録者数）を対象に、新型コロナウイルスのワクチン接種状況についてアンケート調査を実施しましたのでご報告いたします。

【結果の概要】

1. ワクチン接種は概ね完了している

勤務先種別を病院、施設系、在宅系、その他で見た場合、在宅系の事業所に勤務する介護従事者のうち、ワクチン接種をしていないと回答した方は7名（13.5%）と他の種別と比して高い傾向がみられたが、全体で9割がワクチンを接種していた。

2. 在宅系のワクチン接種は遅かった

勤務先種別ごとに1回目のワクチン接種の時期について、病院が4月、施設系が5、6月の割合が高いのに対し、在宅系は7月の割合が高く他の種別と比してワクチン接種が遅かった。

3. 自治体による優先接種の働きかけは介護サービス種別によって異なっていた

自治体から介護従事者に対する優先接種の働きかけの有無については、施設系サービス介護従事者への働きかけがあったと回答した方が89名（60.5%）、居宅系サービス介護従事者への働きかけは34名（23.1%）、在宅系サービス介護従事者への働きかけは52名（35.1%）だった。

4. 介護サービス種別によって優先度が異なっていた

介護従事者のワクチン接種の優先順位について、施設系サービス介護従事者が優先されたと回答した方が71名（48.0%）と最も多く、介護従事者の勤務先のサービス形態の違いによって、ワクチン接種の優先度に違いがあった。

5. 日本介護福祉士会が要望書や声明文を発出していることについて8割が知っていた

日本介護福祉士会が厚生労働大臣宛にワクチン接種の要望書や、声明文を発出していることについて、知っていると回答した方は120名（81.1%）だった。

【総括】

- ・ 在宅系の介護従事者のワクチン接種については、他の種別と比して接種の時期が遅く、自治体による優先接種の働きかけがされているものの、十分ではない可能性が示唆された。
- ・ 施設系サービスと在宅系サービスのワクチン接種の時期がこれ以上拡大しないよう、3回目のワクチン接種の実施が判明した段階で、質問内容と項目を精査のうえ再度アンケートを実施し、その結果を確認し必要に応じ要望書等の提出等について検討して参りたい。
- ・ 現在、介護従事者であると思われる回答は114件であり、また回答者の年齢、所属先種別には偏りがみられたため、実態把握を行うためには限界があった。今後も、運営サポーターの登録にご協力いただきたい。